

ダイズにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシの 夏季多発型の発生消長と天敵の影響（第77号追補） 初期防除が後期の発生密度に及ぼす影響

古川農業試験場

1 取り上げた理由

ダイズにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシの夏季（後期）多発型の発生消長と天敵の影響については、普及に移す技術第77号に参考資料として示した。後期多発型の発生では6月に1回目の小さな発生ピークと8月以降に2回目の大きな発生ピークの2山型の消長を示すが、多発年次以降、1回目の発生に対しても防除を実施するところが多くなっている。このため6月の発生に対する初期防除が後期の発生に対しても効果があるのか検討したところ後期の発生密度に影響しないことが明らかになったので同号の追補とする。

2 参考資料

- 1) ジャガイモヒゲナガアブラムシの発生密度は、6月にいったん高くなるが、7月に入ると初期防除の有無にかかわらず低下する。
- 2) 6月の発生に対する初期防除により8月以降の発生密度を抑制させる効果は低い。

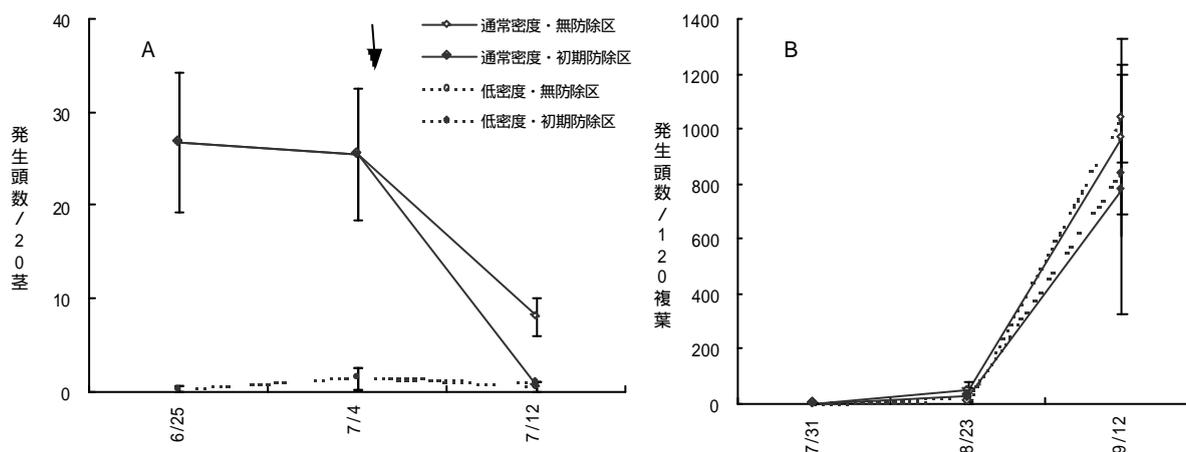


図1 ジャガイモヒゲナガアブラムシの発生密度の推移

A: 6月25日～7月12日の20茎当たりの発生密度、B: 7月31日～9月12日の120複葉当たりの発生密度
初期密度の異なる通常密度区、低密度区を設置し、両区で初期防除の効果を検討した。
低密度区は播種時に薬剤処理を行い密度を抑制し、通常密度区は播種時の薬剤処理をせず通常密度とした。
注1) 矢印: 7/5に各初期防除区において、アディオオン乳剤を散布した。
注2) 6/25、7/4の値は、高密度区の無防除区と防除区の平均値とした。
低密度区においても同様である。
注3) 図中のバーは標準誤差を示す。

3 利活用の留意点

- 1) 本種が媒介するわいか病ウイルス系統は本県に分布せず、別のアブラムシによって媒介される系統が分布する。
- 2) 8月以降は密度が急増する可能性があるため、モニタリングを継続して、吸汁痕が目立つ場合は防除を実施する。
- 3) 初期密度の低下には、寄生蜂が関与している可能性が高い。
- 4) 本試験の結果は、初期の最高発生密度が茎あたり1～2頭程度の条件下で得られたものである。

（問い合わせ先：古川農業試験場 作物保護部 電話0229-26-5108）

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

水田生態系における生物機能を活用した減農薬病害虫制御技術の確立 平成14年

2) 参考データ

a

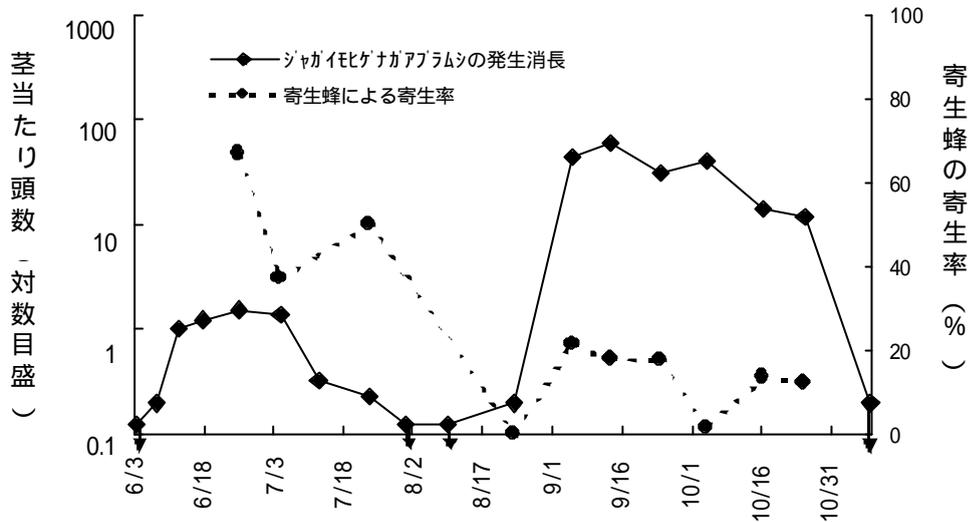


図2 ダイズにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシの発生消長と寄生蜂の寄生率 (平成14年、古川農試、病害虫無防除)

b

表1 県内ダイズ圃場のジャガイモヒゲナガアブラムシへの寄生蜂による寄生率 (%) の推移 (平成14年)

地点名	時期	6月中旬	6月下旬	7月上旬	7月下旬	8月上旬	8月下旬	9月上旬	9月下旬
角田	枝野						1.8	12.0	35.8
	高倉							26.4	50.0
大河原	金分瀬						42.9		
亘理	大隈十文字							55.6	
仙台	西田中			54.5	20.0				
	大			76.2	12.5		11.5		
中新田	四日市場1		80.0	56.3	30.0		0.0	11.7	
	四日市場2		76.5	34.8	9.7		5.9	35.6	
古川	塚目					3.7	17.5		
	東大崎		60.0	29.6	3.1		7.9	12.5	
米山	西野								43.4
築館	太田						29.0		
	下畑岡1		28.6		18.8		0.0		
若柳	下畑岡2	0.0	14.8	27.6	5.6		22.6		
一迫	愛宕		45.7	29.6	26.7		10.9		
志波姫	刈敷	4.5	43.8	65.2					
	刈敷								
平均		2.3	49.9	46.7	15.8	3.7	13.6	25.6	43.1

c

表2 ジャガイモヒゲナガアブラムシから羽化した寄生蜂

調査地点	サンプル数	Aphidius gifuensis	Diaeretiella rapae	Aphelinus albipodus	Aphelinus abdominalis	2次寄生蜂	調査中 (Aphidius gifuensis以外)
古川農試	119	104	2	1	0	5	7
その他県内	689	573	0	0	3	71	42

* Aphidius gifuensis、Diaeretiella rapae (ダイコンアブラバチ) は、コマコバチ科アブラバチ亜科、Aphelinus albipodus、Aphelinus abdominalis は、ツヤコバチ科である。

* その他県内は、23地点から採集したものをまとめた。

3) 発表論文等

第56回北日本病害虫研究会発表